

東京音楽大学付属民族音楽研究所刊行物リポジトリ

Title	ジャワ研修2019（ガムラン演奏と舞踊）報告ーインドネシア国立芸術大学ISIスラカルタ校における授業&公演等ー
Title in another language	Staff Report on Study Program (Gamelan and dance) in Java 2019 - Classes at the Indonesian Institute of the Arts ISI, Surakarta and Performances etc -
Author(s)	樋口 文子 (Higuchi Fumiko)
Citation	伝統と創造=Dento to Sozo, Vol. 9, p. 13-19
Date of issue	2020-03-27
ISSN & ISSN-L	Print edition: ISSN 2189-2350, Online edition: ISSN 2189-2482, ISSN-L 2189-2350
URL	http://www.minken1975.com/publication/IE_B09201902.pdf

ジャワ研修 2019 (ガムラン演奏と舞踊) 報告 ーインドネシア国立芸術大学 ISIスラカルタ校における授業&公演等ー

Staff Report on Study Program (Gamelan and dance) in Java 2019 - Classes at the Indonesian Institute of the Arts ISI, Surakarta and Performances etc -

樋口文子 HIGUCHI Fumiko

2019年8月17日から23日にかけて、インドネシア共和国中部ジャワ州スラカルタ Surakarta (通称ソロ Solo) 市の国立芸術大学 Institut Seni Indonesia (ISI) において、本学学生を対象とした短期留学プログラムとして、また卒業生や社会人講座生等の社会人を対象として、ガムランとジャワ舞踊の現地研修を行った。ガムラン合奏、舞踊のグループ授業や個人レッスンのほか、当該大学やマンクヌガラ Mangkunegaran 王宮における公演、大学講師と学生による影絵芝居ワヤン・クリ Wayang Kulit のワークショップと実演鑑賞、世界遺産観光等を企画した。この報告書はそれらの内容を記録したものである。

キーワード：インドネシア Indonesia、ジャワ Java、ガムラン Gamelan、
舞踊 Dance、研修 Study program

1. はじめに

主に本学学生及び社会人講座生を対象とするジャワ研修は、1990年代より断続的に行われてきた。今回も本学における「ガムラン短期留学プログラム」として、学生のほか卒業生や社会人講座生が多く参加し、同時に一般参加が可能な研修イベント¹「ジャワ現地練習&鑑賞会」として沖縄からの学生や一般参加もあり総勢45名の研修となった。同行者は筆者および本学ガムラン講師の木村佳代氏、主催団体であるNPO法人日本ガムラン音楽振興会代表の村上圭子氏、本学研究員の小出稚子氏、そして今回は本学ジャワ舞踊講師の針生すぐり氏が事情により同行できなかったため、東京在住でISIに留学経験のある舞踊家の川島未未氏に特別に同行していただいた。同行者は授業やレッスン、観光の通訳等を行い、プログラムは全て滞りなく終了した。

現地の大学内で研修が実施されたのは、2019年8月18日(日)～23日(金)の6日間である。インドネシア国立芸術大学ISIスラカルタ校にて、19日～23日の5日間、ガムラン合奏授業(入門、初級、中級、上級の4クラス)と舞踊授業(舞踊別4クラス)、他に希望者によるガムランパートの個人レッスンが行われた。また、18日夜にはISIの講師と学生による影絵芝居ワヤン・クリのワークショップと実演、20日夜にはマンクヌガラ王宮にてディナー付き特別公演鑑賞会(舞踊と演奏)、22日夜には国立芸術大学の伝統的なイベント会場PENDOPOにて、先生方による模範演奏と舞踊の公演鑑賞会

(本学の教材として同時収録)があり、21日にはオプションとして同大学美術学部にてジャワのろうけつ染めパティック製作ワークショップが開かれた。最終日23日には先生方への感謝の気持ちを込めて懇親会が開かれ、舞踊研修生が学習の成果を披露した。

また前回2017年は治安の事情から観光が見送られたが、今回は8月17日にジョグジャカルタ Yogyakarta 近郊の世界遺産ボロブドゥール Borobudur 寺院とプランバナン Prambanan 寺院遺跡、内陸のグドンソンゴ Gedung Sanga 遺跡とコーヒー農園を訪れるオプション観光を企画することができた。大学での研修開始前日に催行されたこれらの観光には25名が参加し、18日午前にはスラカルタ近郊のジャワ原人発掘地の博物館に30名を案内した。インドネシア独立記念日と重なり混雑したが、5年ぶりの観光ということで概ね好評であった。治安が改善され、参加者が安心して滞在できたと思う。

以下、個々に研修の内容を記録する。

2. ガムラン合奏授業

ガムラン合奏授業は、入門クラス3回、初級クラス4回、中級クラス4回、上級クラス4回(1回90分)の計15回行われた。以下に、それぞれのクラスの授業内容を記す。今回から、以前の報告と重複する部分が多いため簡潔に指導者と課題曲等を記載する。

2-1. 入門クラス(3回)

指導者：ジョコ・プルワント Joko Purwanto 氏、ルスディヤントロ Rusdiyantoro 氏

課題曲：「ググル・グヌン」Lcr. Gugur Gunung, pl.br.

参加者：約15名

2-2. 初級クラス(4回)

指導者：ダルノ Darno 氏、プラサディヤント Prasadityanto 氏ほか

課題曲：「ワホノ」Ldr. Wahana, pl.br.

参加者：約15名

2-3. 中級クラス(4回)

指導者：スラムツ・リヤディ Slamet Riyadi 氏、ナナン Nanang 氏

課題曲：「ランドウ・ケンティル〜アユン・アユン」

Gd.Randu Kentir, kt.2 kr.mg. Ldr. Ayun-ayun, pl.6

参加者：約20名

2-4. 上級クラス(4回)

指導者：スカムソ Sukamso 氏、ワフユ・トイブ・パンバユン Wahyu Thoyyib Pambayun 氏

課題曲：「ロロウドウ〜チュルンタン・マタラマン」

Gd.Larawudhu, kt.2 kr. mg. Ldr. Clunthang Mataraman, sl.9

参加者：約20名

3. ジャワ舞踊授業

舞踊の授業は、舞踊別に4クラス、各3～4回ずつ行われた。今回も指導者が2名ずつ付き手厚い指導が行われた。

3-1. Aクラス（4回）

指導者：ヌルヤント Nuryanto 氏、イルワン・ダルマスト Irwan Dharmasto 氏

舞踊：「タンディンガン・アルス」 Tari Tandhingan Alus

参加者：約15名

3-2. Bクラス（4回）

指導者：ダルマスティ Darmasti 氏、マハラニ・ルヴィンダ・デウィ Maharani Ludvinda Dewi 氏

舞踊：「バティック」 Tari Batik

参加者：約15名

3-3. Cクラス（4回）

指導者：ナヌ Nanuk Rahayu 氏、スリスティヨ・ハルヤンティ Sulisty Haryanti 氏

舞踊：「ゴレ・スルンダユン」 Golek Surung Dhayung

参加者：約15名

3-4. Dクラス（3回）

指導者：ナヌ氏、スリスティヨ氏（女性）、ヌルヤント氏、ダルマスト氏（男性優形）、カルヨノ Karyono 氏、ナンダン・ウィスヌ・パムナン Nandhang Wisnu Pamenang 氏（男性荒型）

舞踊：「ラントヨ Rantaya」（女性、男性優形、男性荒型 各1回）

参加者：各回とも約15名

4. 個人レッスン

前回同様に希望者がガムラン演奏の特定のパートを学ぶ個人レッスンを受けられるよう準備した。合奏授業だけでは習得不可能な難易度の高いパートを学ぶためのもので、今回は13名の希望者により約43回のレッスンが行われた。ひとりあたりの回数については、課題曲の規模を配慮して最大4回受けられるようにした。レッスン対象の楽器は、ボナン Bonang、ルバブ Rebab、グンデル Gender、中太鼓チブロン Ciblon、そして女声の独唱シンデン Sindhen であった。

5. 公演鑑賞会等

5-1. 伝統芸能影絵芝居「ワヤン・クリ」ワークショップと実演鑑賞

日時：8月18日（日）19:00-21:30

場所：ISI Surakarta 内スタジオ

講師・ダラン（人形遣い）：ハリヤディ Harijadi Tri Putranto 氏

演奏：スリウィドド Sri Eko Widodo 氏（太鼓担当）と ISI Surakarta ガムラン演奏科
Jurusan Karawitan の学生有志の皆さん

通訳：岸 美咲（留学生）

[付記]

ユネスコの世界無形文化遺産に登録されている中部ジャワの伝統芸能ワヤン・クリ（以下ワヤンと略す。）は、現在でも村のお浄めやお祓い等の儀式として盛んに上演されている。ジャワの芸術の最高峰と言われるワヤンはガムランが伴奏を担い、伝統的なジャワ舞踊を踊るシーンもある。参加者にぜひ本場でワヤンを鑑賞して欲しいという思いと、素晴らしい芸能ワヤンをより身近に感じて欲しい思いから、ワークショップと基本的な曲を用いた学生さんの伴奏による実演をお願いした。前半は留学生でハリヤディ先生の生徒である岸美咲さんに通訳を担当してもらい、ワヤンの基礎知識や、実際に人形を手にして扱い方や動かし方を学んだ。また後半の実演では、ワヤンの特に動きのある場面を取り出して、研修参加者が学習経験のある馴染み深い曲を用いて伴奏していただいた。ガムラン演奏科の学生達は、すぐ近くに座った外国人達の熱い視線に時折照れたような表情をしながらも、俊敏で息の合った聴きごたえのある演奏を聴かせてくださった。また、ダランには途中でゴレ（木偶人形）を使ったジャワ舞踊の実演を取り入れてくださるようリクエストし、女性舞踊ガンビヨンと男性の荒型舞踊の実演を見せていただいた。初めて見る人が多かったと思う。ハリヤディ先生はこちらの要望を全て取り入れ素晴らしい構成で妥協せず意欲的に会をすすめてくださり、参加者は自由に楽器やクリル（ワヤンを上演する幕）のすぐ近くに座って、ダランと演奏者のコミュニケーションを感じながら迫力の舞台を体験した。大学訪問研修の最初のイベントとして、質の高い現地学生の演奏を聴くことができ、とても有意義であった。

5-2. マンクスガラン王宮のディナー付き特別公演鑑賞会（舞踊と演奏）

日時：8月20日（火）18:30-21:00

場所：マンクスガラン王宮 大ブンドポ（大広間）

演目：演奏「ドノロジョ」Gd. Bng. Danaraja, pl.5

「プスポワルノ」Ktw. Puspawarna, sl.mnyr.

舞踊「ガンビヨン・ルトノクスモ」Gambiyong Retnakusuma

「タリ・メナ・コンチャル」Tari Menak Koncar

5-3. 国立芸術大学 ISI スラカルタ校講師陣による模範演奏&舞踊公演鑑賞会

日時：8月22日（木）19:00-22:00

場所：国立芸術大学 ISI スラカルタ校大プンドボ

演目：演奏・「ウィルジュン」 Ldr. Wilujeng, pl.br. malik sl.mnyr.

舞踊・「ゴレ・スルンダユン」 Golek Surung Dhayung

演奏・「ワホノ」～「ググルグヌン」

Ldr. Wahana, terus Lcr.Gugur Gunung, pl.br.

舞踊・「バティック」 Batik

演奏・「ランドゥ・ケンティル〜アユン・アユン」

Gd.Randhu Kentir, mg. Ldr. Ayun-ayun, pl.6

舞踊・「タンディングン・アルス」 Tandhingan Alus

演奏・「ロロウドゥ〜チュルンタン・マタラマン」

Gd.Larawudhu, mg.Ldr.Clunthang Mataraman, sl.9

演奏・「アヤアヤアン・パムンカス」 Ayak-ayakan Pamungkas,sl.mnyr.

[付記]

研修では毎回、本学の教材動画収録を兼ねて、先生方に各授業の課題曲の模範演奏と課題舞踊を中心にした公演を依頼している。研修参加者は教育的な配慮で特別に楽器のすぐ近くに座ること、つまりステージに上がって演奏法を見たい楽器の近くで鑑賞することが許されているが、更なる新しい試みとして、合奏エリアの前に舞踊の講座生が鑑賞するエリアを作り、模範の舞踊を楽器と舞踊研修生のほうを向いて踊っていただくようにした。これにより、前回までは楽器の近くに座ると舞踊を後ろからしか見られず、舞踊を正面から見ると楽器から遠くなってしまっていたのが、今回全ての参加者がガムラン演奏のすぐ近くで舞踊を正面から鑑賞できるようになった。また楽器側から教材のための撮影ができるため、各楽器のより詳細な音が収録でき、更に舞踊映像にガムランの楽器や演奏家が写り込まず、動きが見やすくなった。プンドボという三方が外に開かれた大広間の形状からは通常考えられない「内向きで型破り」な配置で驚かれたが、「教材動画の収録」と公演のスポンサーでもある研修参加者の鑑賞手法としてはベストであり、ご理解をいただいた。次回はカメラや照明の方向など混乱のないよう、あらかじめインドネシア語での説明資料を現地の関係者に配布しようと思う。また今回は、本学卒業生でありジャワで長年にわたりシンデン（女性の歌い手）として活躍している狩野裕美さんに最初の曲を歌っていただき、その後は司会の通訳をお願いした。

舞踊は、今回もベテランの先生方をお願いした。本場の先生方の生演奏をバックに、授業で指導して下さった先生が衣装を着けてすぐ目の前の舞台上で踊ってくださるのを鑑賞する機会を、参加者は今回特に十分に味わえたと思う。

5-4. ジャワのろうけつ染めバティック・ワークショップ

日時：8月21日（水）16:00-18:00

場所：国立芸術大学 ISI スラカルタ校美術学部校舎内

参加：約20名

6. 観光² (遺跡・博物館見学等)

6-1. ジョグジャカルタ近郊世界遺産見学とラーマーヤナ Ramayana 舞踊劇鑑賞

日時：8月17日(土) 終日

場所：ポロブドゥール寺院遺跡・プランバナシ寺院遺跡と敷地内特設ステージ

参加：約20名

6-2. スマラン Semarang 近郊遺跡とマグラン Magelang のコーヒー農園見学

日時：8月17日(土) 終日

場所：グドンソンゴ遺跡群・メサスティラ Mesastila コーヒー農園

参加：約5名

6-3. ソロ近郊(スラゲン Sragen) ジャワ原人発掘地博物館見学

日時：8月18日(日) 午前

場所：サンギラン Sangiran ジャワ原人博物館

参加：約30名

7. おわりに ー本学とISIスラカルタ校の提携調印の報告を兼ねてー

今回も日本、インドネシア両方において多くの方のご協力を賜り、無事に全てのプログラムを終えることができた。開催日程が決まってからの半年間の作業ー最も適した航空券の調査にはじまり概要の決定・周知や宿泊の予約、現地の先生方をお願いする準備作業やそのための細かなやり取りを含め、研修の準備は何度経験しても多岐に渡って気を遣い精神的に重労働で、仕事量も圧倒的に多い。ルーティーンの仕事に加えてそれらをこなすのは正直なところ容易ではないが、一般の会社を介さず私たちが手作りで準備をすることにより、予算の割に充実して魅力的な内容の行程となっており、それ故に多くの方から賛同を得られ、継続して参加する人が多いのだろうと思っている。有り難いことにここ数回は、催行のたびにリピーターの社会人参加者による協力体制ができ、彼らの大人の気配りに助けられ、学生が安心して参加できる研修が成り立っている。また多くの方が参加することでさまざまなレベルのグループレッスンや大がかりなチャーター公演が成り立っていてもいる。本当に素晴らしく且つ頼もしい状況であり、準備の重労働を除けば現在の「かたち」がいまのところ最良であるように思う。そして習得しようとする芸術が生まれ育まれた地に足を運ぶ意義は大いにあり、学生が見違えるほど成長するさまや、参加者からの感謝の言葉、他に類を見ない収録教材(公演記録等)など成果の大きさを見れば、できる限りこの「かたち」で研修イベントを続けるのが良いということとは明らかである。(ところで、老若男女が大人数で協力しながら、互いにおぎないあってつつがなく…とは、まるでガムランの演奏のようである。個人的見解だが、研修の継続にもガムランの持つ力が発揮されていると感じる。ガムランの名のもとに集まって、ガムランを学んでいることが、研修を毎回つつがなく続けられている理由なのかも

しれない。)

さてこれまでは教員レベルで研修を続けたい、続けるべきと思っていたのが、大きな変化が訪れた。数年の調整期間を経て、2019年8月28日に本学とISIスラカルタ校がガムラン教育において提携調印の運びとなったのである。そのプロセスのなかでこの研修が両大学の架け橋となり、提携内容に研修の続行が盛り込まれたことを、喜びをもって報告する。これは、研修の企画の意図と参加者のガムランへの熱意がISIの講師の方々に伝わり、更に国際部の先生方から首脳陣に伝わり、真に受け入れられた証である。また本学でも提携の提案をしてから、会議の際に加藤富美子所長はじめ諸先生方からたびたび心を掛けていただいた結果である。本学およびISIスラカルタ校どちらにも研修が評価されて実現した今回の提携は、自分にとってガムラン活動の節目となった。

これを糧に、今後も大人数で助け合い協力し感謝し合いながら、より充実した研修を目指して継続していきたい。

注：

- 1 主催は、前回と同じくNPO法人日本ガムラン音楽振興会（筆者および木村佳代氏等が理事を務める）。
- 2 具体的な企画とバス等の手配は日本人女性が運営するジョグジャカルタの旅行会社「BBTトラベル」に相談、依頼した。

From 17 through 23 August 2019, we conducted a short-term study abroad program for our students, alumni, and adults, in and around the city of Surakarta in Central Java, Indonesia. They participated in Gamelan and Dance classes. They experienced playing Gamelan in the ensemble and private lessons, group dance lessons as well as appreciated performances at the ISI, Mangkunegaran Palace, and Wayang Kulit workshops and performances by the ISI students and instructors. They also took part in and enjoyed the World Heritage Sites Tour. This report presents details of the activities offered for the participants.

本研修は、東京音楽大学附属民族音楽研究所 2019年度フィールドワーク費助成を受けたものです。

（本学講師、ガムラン）

